



和敬会だより

第142号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野呉山病院
富山市北代5200
<https://www.wakeikai.com>
発行人
理事長 谷野 亮一郎



発行日 令和5年4月17日

完走目指し出走前に記念撮影



実は和敬会にはG-RUNNINGというランニング同好会があります。令和4年の富山マラソンには、院長を筆頭に4名の会員が出走しました。結果は……見事全員完走しました。沿道では職員が応援していました。出走でも応援でも一緒に楽しみませんか？ご連絡をお待ちしております。同好会長 宮川 恵美

医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院
ホームページ



職員募集専用



生き残りをかけて

理事長・院長 谷野 亮一郎



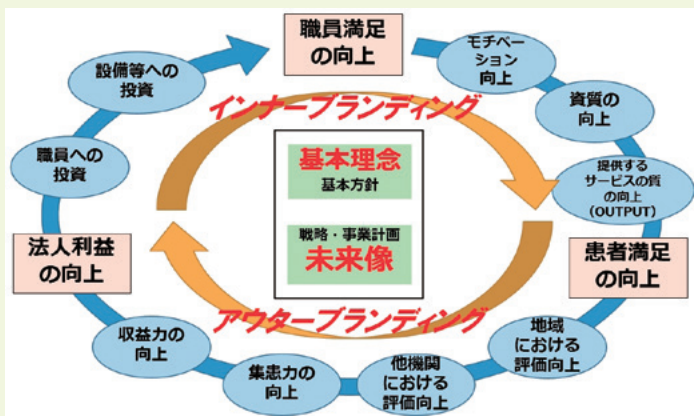
少し前の話になりますが、都立精神科病院の院長先生(当時)のインタビュー(二〇一九年八月二十二日 朝日新聞)を読んで愕然としました。

「年間六十五億円稼ぎ、百三十億円使います。(中略)一方でどれほど経営を改善しても、民間病院ではやらない、公立病院として必要とされる医療をやるうと思えば赤字は必然です」

ただ、その院長先生が全くの「採算度外視」で病院を運営していたとは思えません。現にそのインタビューで「経営改善は喫緊の課題です」「多額の税金によって運営される公立病院は、採算にとられずに必要とされる医療を提供するだけでなく、民間医療機関を支援し、精神医療を取り巻く環境全体を向上させなければなりません。できるだけ多くのニーズに応えるためにも、納税者が納得してくれる経営効率の達成は前提条件です」と語っておられます。

しかし、地域で必要とされる医療を実践するためには診療報酬だけでは到底まかない切れない、ということになると、精神科医療は医療経済的に破綻していると言ってもよいのではないのでしょうか。

それでも、公立病院のようなことをやっているという間に経営破綻してしまう民間の病院が地域で存続し続けるためには、適正な利益を確保する経営努力が必要です。それは我々が提供するサービスが地域で必要とされ続けるよう尽力することに他なりません。生き残りをかけて、地域で必要とされ続けるために、好循環が生まれるよう、変わり続けたいと思います。



高校生のフィールドスタディを受け入れました

令和四年度から高等学校学習指導要綱が改定され「総合的な探求の時間」という学びの時間が設けられています。その一つの取り組みとして、高校生が将来を考える社会学習であるフィールドスタディに取り組み学校が増えました。当院でも令和四年十二月に滑川高校一年生十五名、富山いずみ高校一年生二十五名がそれぞれ来院。谷野理事長のあいさつ、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、管理栄養士の仕事についての講義と院内の見学を行いました。質疑応答も活発に行われて、終始和やかな雰囲気であつたという間の時間でした。「説明がとても分かりやすかつた。」「想像していたのとは違い、明るい雰囲気でした。」「精神科に良いイメージがなかつたけど、今回のフィールドスタディに参加して自分の中でイメージがガラッと変わった。」等の感想が寄せられ、こちらが元気をいただいたような気がします。



作業療法体験(風船バレー)



グループミーティング

また、受け入れましょう！
人事課 野村 うちぬ

病院機能評価訪問審査を終えて各部門から感想をいただきました



平成十九年に最初の病院機能評価を受けて以来、五年ごとに受審を重ね今回で四回目となりました。十一月十日～十一日の訪問審査に向けて、令和四年四月に発足した危機管理等委員会を中心に、職員の皆様一丸となつて準備に取り組んでいただき心から感謝しております。

この取組みの中で、各種のマニュアルや規程をアップデートし、仕事の内容や流れを見直すとともに、懸案であった大規模地震や感染症を想定した事業継続計画なども整備することができました。また、医療をめぐる環境の変化は、近年、そのスピードを増していますが、訪問審査を受けることによって、これらの変化に当院が対応できているかチェックすることができました。訪問審査では、外部の視点からご指摘をいただき、当院だけでは気づくことができなかった課題も浮き彫りになりました。今後、サバイバーの皆様からの貴重なアドバイスを当院の医療の質改善に活かしていきたいと思えます。

事務局長 小川 正英

病院機能評価受審にあたっては、小川事務局長が陣頭指揮をとり、職員が丸となって乗り切りました。メンタルケア病棟は指定病棟であり、看護部長、看護師長が前もって多くの準備をされていたこともあり、病棟フوندを無事終えることができました。また、約一年間の入院を経て退院できたうつ病の七十代男性患者さんを代表的な症例として選択しプレゼンテーションしました。多職種連携が円滑に行われた事例であり、かわつたスタッフがそれぞれの立場から意見を述べました。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

診療部長 島崎 正夫

感染制御に向けた対策に携わり、感染対策マニュアルの見直し、新型コロナウイルス感染の分析を行いました。受審当日サバイバーからは、特に感染対策について詳しく確認しますと言われかなり緊張しました。病棟ラウンド、手指消毒剤の消費状況、富山県内の感染状況などについて、足りない部分のご指摘を受けましたが、全体としてしっかりと感染対策を行っている、評価をいただき安堵しました。

メンタルケア病棟師長 長谷川 淳

薬剤部では主に、ハイリスク薬剤の再選定、病棟管理薬の見直し、退院時処方における薬剤情報の全例提供といった取り組みを行いました。特に、ハイリスク薬剤に関しては、「生命の危険を脅かす重篤な有害事象を引き起こす可能性のある医薬品」と定義し直し、はじめから対象薬剤を選定し直しました。医薬品名に識別マークを付けたほか、救急カートや病棟管理薬に「ハイリスク薬」と記載した黄色ラベルを貼付し、他の医薬品と識別しやすい工夫を行っています。

薬剤部長 山本 浩二

栄養管理部門では患者さまの栄養スクリーニング・計画書・モニタリングの確認と、各種マニュアルの見直しを行い、給食部門では調理施設の念入りな衛生管理と環境整備を心がけ、審査を迎えることができました。訪問審査では、調理室が衛生的に大変綺麗であること、当院のセレクトメニューや行事食、患者さまへの聞き取り・嗜好調査を考慮した献立に高い評価をいただきました。また、NSTにおけるミールラウンドの課題をご指摘いただきました。

栄養課長 角田 南美江

サバイバーの方はベテランの医療事務経験者とお聞きしていたため、何を問われるのかと緊張していました。しかし実際の面接調査は打ち解けた雰囲気、いろいろなご提案やアドバイスをさせていただきました。具体的には、患者さまやご家族に対し分かりやすい説明を工夫するとともに、入院案内などの書類は患者さまの立場に立った表記に改めるようご指摘がありました。また、医事業務は診療報酬請求や受付、会計など、患者さまやご家族に接する機会が多く、最も大切なことは「笑顔」であるとのこと指導もいただきました。

医事・医療情報課長 森 藍美

法人の動き

月	日	事項
11	6	富山マラソン
11	10・11	病院機能評価訪問審査
11	18	秋季職員検診
12	29	創立記念式典・仕事納め式
1	4	仕事始め式
1	30	富山市保健所医療監視

認知症疾患医療センター研修会

「チームにとって必要なこと」

「『心理的安全性』って聞いたことある？」

講師：理事長 谷野 亮一郎

QRコードから視聴できます

配信期間

令和五年六月三十日まで



資格取得・表彰

日本精神保健福祉連盟会長表彰

若田 和美（ストレスケア病棟 看護補助者）

日本精神科病院協会会員病院職員永年勤続表彰

村上 聡（デイケアのぞみ 看護師）

小田 良光（谷野医院 精神保健福祉士）

富山県精神保健福祉大会長表彰

高木 佳文（経理課 事務員）

柳川 重昭（メンタルケア病棟 准看護師）

富山県医師会永年勤続医療従事者表彰

谷野 俊郎（和敬会 法人本部長）

坂井 笑美（ストレスケア病棟 看護補助者）

酒井 成世（薬剤部 薬剤師）

和敬会永年勤続者表彰

三十年表彰

村上 聡（デイケアのぞみ 看護師）

梶尾 都（谷野医院 公認心理師）

二十年表彰

坪井 泰樹（栄養課 調理師）

中洞 千里（経理課 事務員）

十五年表彰

高島久美子（クライシスケア病棟 准看護師）

田村 智子（ストレスケア病棟 看護補助者）

中條 由佳（外来 看護師）

角田南美江（栄養課 管理栄養士）

浦西 将之（人事課 事務員）

加藤 正志（総務課 事務員）

高木 佳文（経理課 事務員）

十年表彰

榎戸美佐子（副院長 医師）

梅本 智子（33病棟 看護補助者）

篠島 恭輔（3A病棟 准看護師）

篠島 冬奈（33病棟 看護師）

高野田真代（訪問看護室 看護師）

二十歳のお祝

境田英真梨（クライシスケア病棟 看護補助者）

吉田 芽愛（メンタルケア病棟 看護補助者）

紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

病院機能評価訪問審査が終わりました。

毎回の更新時期は、改めて自分たちの仕事を
見直す機会となります。選ばれる病院目指
して、これからも頑張りたいという志を
いつまでも持ち続けたいですね。

今号をもちまして十三年続けた編集委員を
交代することになりました。ありがとうございました。
（樹）